



三菱UFJフィナンシャル・グループ

平成23年度決算ハイライト

平成24年5月15日

Quality for You

確かなクオリティを、明日へ。世界へ。

本資料には、当社又は当社グループの業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記載されています。また、将来の予想、見通し、目標、計画等を策定するためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし前提(仮定)は、その性質上、将来その通りに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。

そのような事態の原因となりうる不確実性やリスクの要因は多数あります。その内、現時点において想定しうる主な事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、Annual Reportをはじめとした当社の公表済みの各種資料の最新のものをご参照ください。

<本資料における計数の定義>

連結 : 三菱UFJフィナンシャル・グループ(連結)
2行合算 : 三菱東京UFJ銀行(単体)と三菱UFJ信託銀行(単体)の単純合算

● 損益サマリー	3
● 当期純利益の概要	4
● 部門別業績概要	5
● B/Sサマリー	6
● 貸出金・預金	7
● 国内預貸金利回り	8
● 貸出資産の状況	9
● 保有有価証券の状況	10
● 欧州周縁国へのエクスポージャー	11
● 自己資本の状況	12
● 24年度業績目標／配当金予想	13

損益サマリー

● 業務純益

- 業務粗利益は国債等債券関係損益の増加や証券トレーディング損益が改善した一方、コンシューマーファイナンス収益や優先株式配当など資金利益の減少を主因に若干の減少
- 営業費はグループワイドな経費削減の継続により減少した結果、連結業務純益はほぼ前年度並み

● 与信関係費用総額

- 一般貸倒引当金戻入益の計上や貸出金償却の減少等により大幅に改善

● 株式等関係損益

- 株式等売却損益の悪化に加え、株式等償却の増加により損失が拡大

● その他の臨時損益

- モルガン・スタンレーの持分法適用関連会社化に伴う負ののれん(2,906億円)発生のほか、利息返還損失費用の減少を主因に大幅な増加

● 当期純利益

- 業績目標9,000億円を上回る利益を計上
- 負ののれん発生効果を除いても、増益を確保

(単位:円)

〈ご参考〉	23年度	22年度	増減
1株当たり利益	68.09	39.95	28.15
連結ROE ^{*4}	11.10%	6.89%	4.20%

^{*4} $\frac{\text{当期純利益} - \text{非転換型優先株式年間配当相当額}}{[(\text{期首株主資本合計} - \text{期首発行済非転換型優先株式数} \times \text{払込金額} + \text{期首為替換算調整勘定}) + (\text{期末株主資本合計} - \text{期末発行済非転換型優先株式数} \times \text{払込金額} + \text{期末為替換算調整勘定})] \div 2} \times 100$

〈連結P/L〉

(単位:億円)

	23年度	22年度	増減
1 連結業務粗利益(信託勘定償却前)	35,020	35,225	▲ 204
2 資金利益	18,405	20,200	▲ 1,794
3 信託報酬+役員取引等利益	10,611	10,798	▲ 187
4 特定取引利益+その他業務利益	6,002	4,226	1,776
5 うち国債等債券関係損益	2,703	2,213	490
6 営業費(▲)	19,945	20,208	▲ 263
7 連結業務純益	15,074	15,016	58
8 与信関係費用 ^{*1}	▲ 2,575	▲ 4,242	1,667
9 株式等関係損益	▲ 886	▲ 571	▲ 315
10 その他の臨時損益 ^{*2}	3,107	▲ 3,737	6,844
11 経常利益	14,719	6,464	8,255
12 特別損益	▲ 238	▲ 68	▲ 169
13 法人税等合計	▲ 3,764	▲ 1,754	▲ 2,009
14 少数株主利益	▲ 902	1,190	▲ 2,093
15 当期純利益	9,813	5,830	3,982
16 除く負ののれん	6,906	5,830	1,076
17 与信関係費用総額 ^{*3}	▲ 1,934	▲ 3,541	1,606

〈2行合算P/L〉

	23年度	22年度	増減
18 業務粗利益(信託勘定償却前)	23,620	23,375	245
19 営業費(▲)	11,910	11,805	105
20 業務純益	11,710	11,569	140
21 経常利益	8,534	7,626	907
22 税金等調整前当期純利益	8,531	7,763	767
23 当期純利益	5,449	7,147	▲ 1,698
24 与信関係費用総額 ^{*3}	▲ 1,345	▲ 1,742	396

^{*1} 与信関係費用(信託勘定)+一般貸倒引当金繰入額+与信関係費用(臨時損益)

^{*2} 持分法投資損益、利息返還損失引当金繰入額、貸倒引当金戻入益、偶発損失引当金戻入益(与信関連)、償却債権取立益を含む

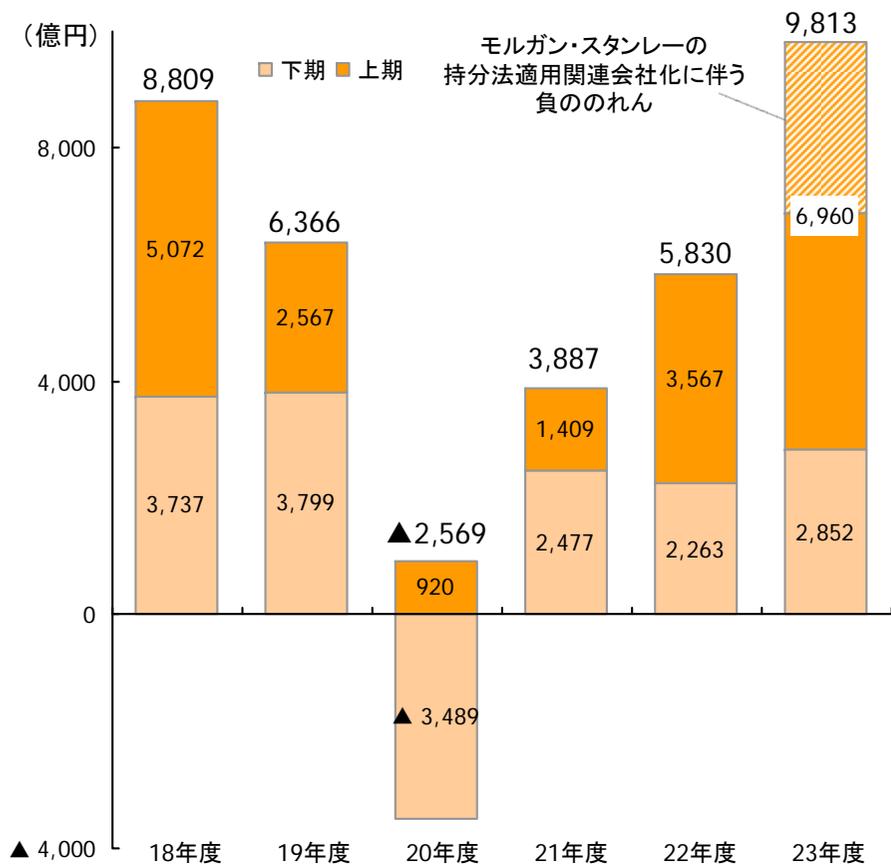
なお、22年度の貸倒引当金戻入益、偶発損失引当金戻入益(与信関連)、償却債権取立益は特別損益に計上

^{*3} 与信関係費用+貸倒引当金戻入益+偶発損失引当金戻入益(与信関連)+償却債権取立益

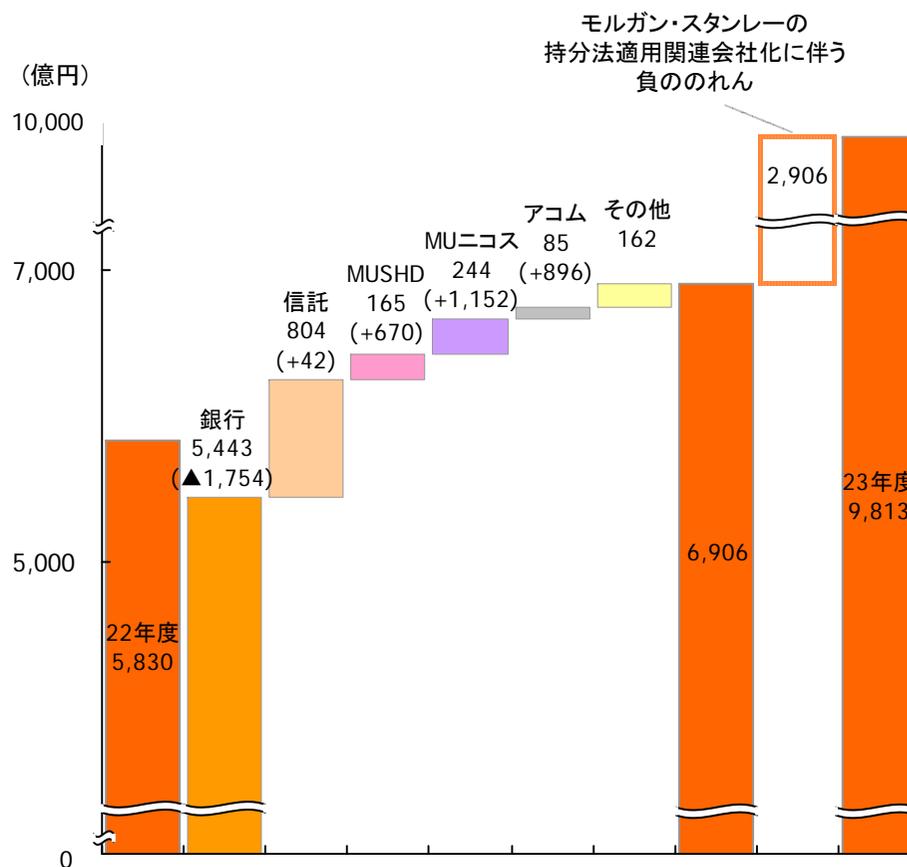
当期純利益の概要

- 21年度以降、当期純利益は3期連続増益。23年度当期純利益は負ののれん(2,906億円)を除いても増益
- 前年度に抜本的な財務処理を実施したMUSHD、MUニコス及びアコムを含め、主要業態は何れも黒字を確保

当期純利益の推移



当期純利益内訳*1

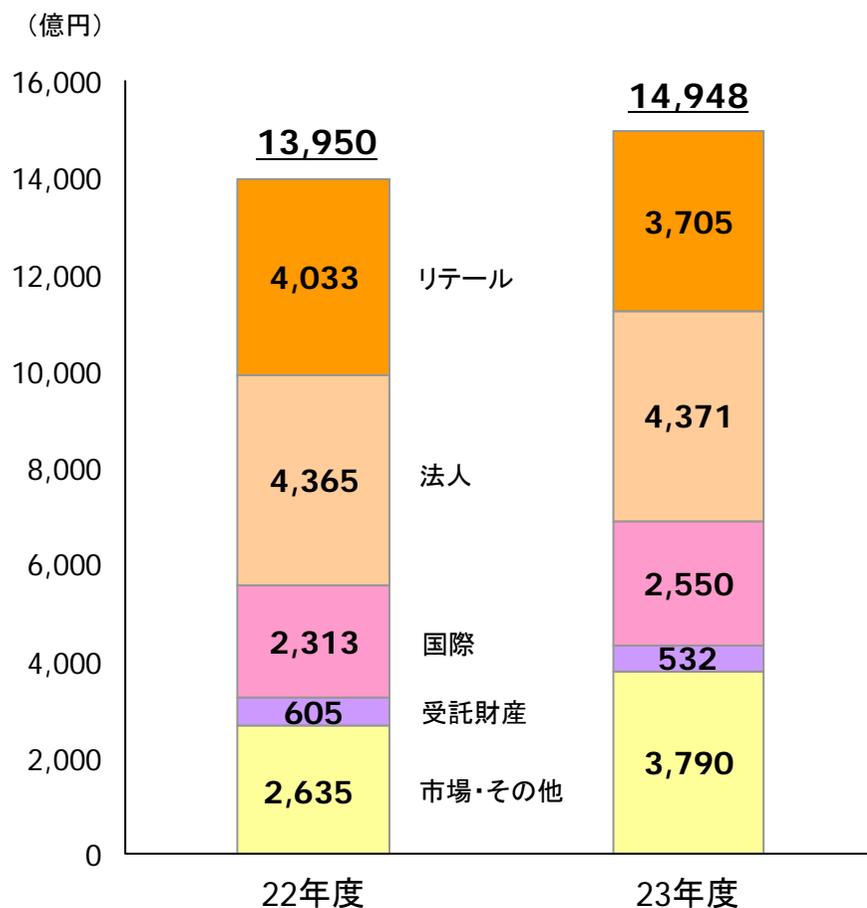


*1 上記子会社の計数は持分比率勘案後(税引後ベース)の実績
括弧内は前年度比増減額

部門別業績概要

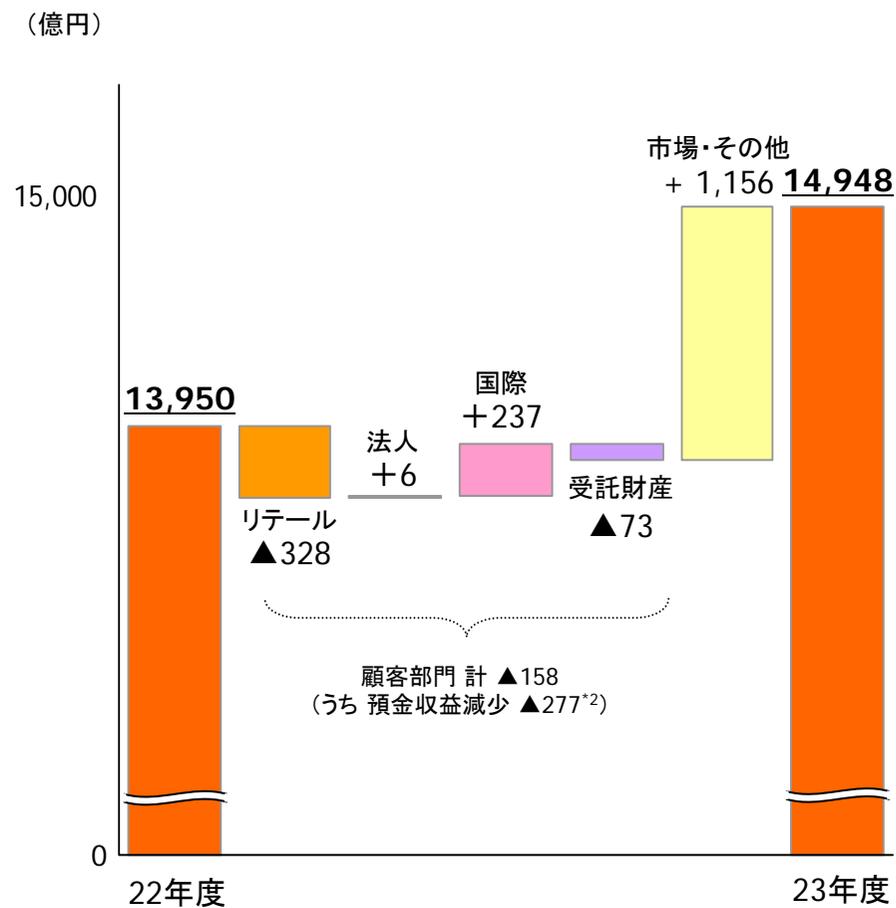
- 営業純益は、リテール、受託財産部門は減少したものの、市場部門が大きく伸張したほか、貸出関連収益を中心とする国際部門の増益により、全体では前年度比998億円の増益

部門別営業純益*1



*1 管理ベースの連結業務純益

営業純益増減内訳



*2 預金収益(管理ベース)は単体合算ベース

●貸出金

■国内法人貸出、海外貸出を中心に、23年3月末比、同9月末比とも大幅に増加

●有価証券

■国債、外債を中心に23年3月末比、同9月末比とも大幅に増加

●預金

■23年3月末比微増、同9月末比では法人等預金が増加に転じ大幅に増加

●純資産

■利益剰余金や有価証券評価差額金の増加を主因に23年3月末比、同9月末比とも増加

●開示債権

■開示債権額及び同比率とも23年3月末以降若干の悪化だが、低水準を維持

●その他有価証券評価損益

■23年3月末比では債券を中心に、同9月末比では国内外の株式を中心に改善

〈連結B/S〉

	24年3月末	23年3月末比	23年9月末比
1 資産の部合計	2,188,616	126,345	29,144
2 貸出金(銀行勘定+信託勘定)	846,400	44,976	49,753
3 [貸出金(銀行勘定)]	[844,926]	[44,976]	[49,812]
4 うち国内法人貸出*1	456,347	17,177	25,508
5 うち住宅ローン*1	168,660	▲4,346	▲1,167
6 うち海外貸出*2	199,471	35,249	28,063
7 有価証券(銀行勘定)	782,647	72,410	26,905
8 うち国債	485,627	36,208	12,998
9 うち外国債券	179,219	42,844	16,083
10 買現先・債券レポ	78,095	▲8,088	▲26,065
11 負債の部合計	2,071,858	117,731	25,734
12 預金	1,247,892	6,449	32,067
13 うち個人預金(国内店)	658,443	14,597	9,676
14 売現先・債券レポ	185,647	40,764	▲10,757
15 純資産の部合計	116,757	8,613	3,410
16 金融再生法開示債権*1	15,821	1,514	1,182
17 開示債権比率*1	1.77%	0.09%	0.03%
18 その他有価証券評価損益	8,320	5,044	4,418
19 連結自己資本比率	14.91%	0.01%	▲0.51%
20 (Tier1比率)	(12.31%)	(0.97%)	(▲0.73%)

*1 2行合算+信託勘定

*2 海外支店+ユニオンバンク・コーポレーション+BTMU(中国)

貸出金・預金

● **連結貸出金残高84.6兆円**
(23/9末比+4.9兆円)

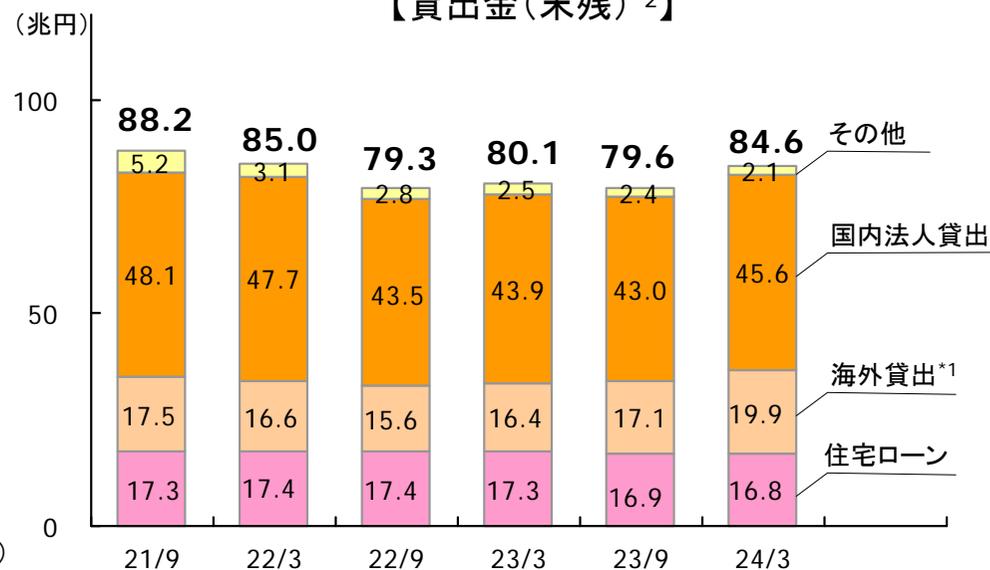
<23/9末比増減の主要因>

- 住宅ローン ▲0.1兆円
- 海外貸出*1 +2.8兆円
- 国内法人貸出 +2.5兆円

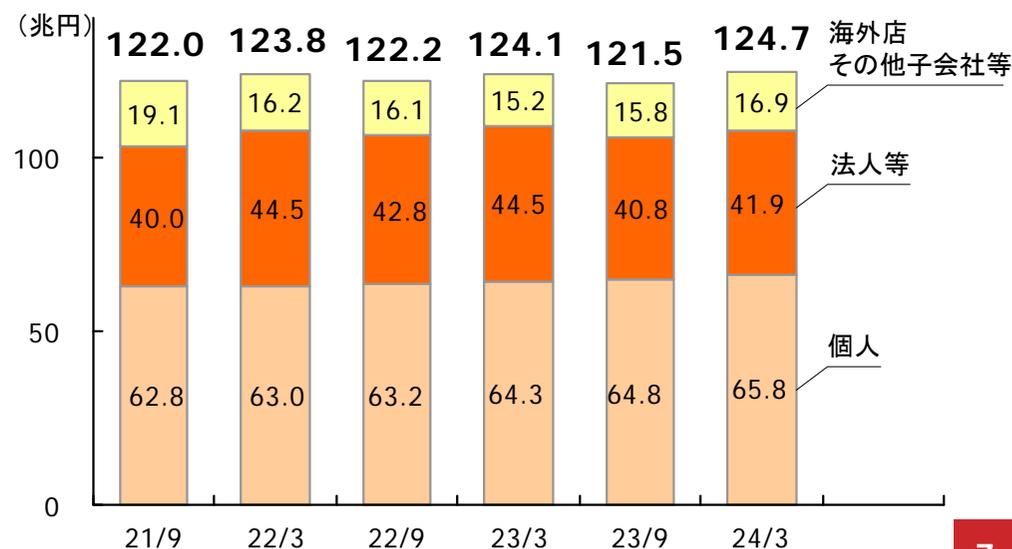
*1 海外支店+ユニオンバンクカル・コーポレーション+BTMU（中国）

*2 銀行勘定+信託勘定

【貸出金(末残)*2】



【預金(末残)】



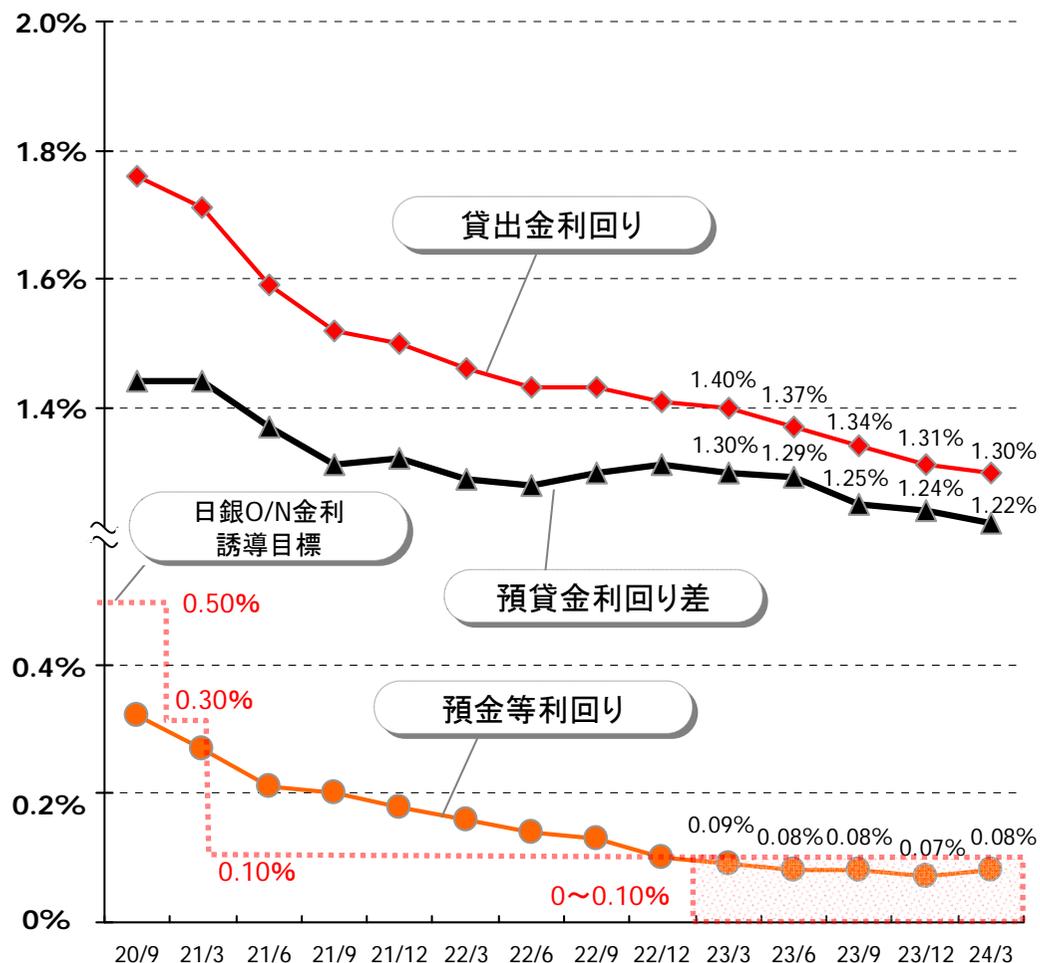
● **連結預金残高124.7兆円**
(23/9末比+3.2兆円)

<23/9末比増減の主要因>

- 個人預金 +0.9兆円
- 法人等預金 +1.0兆円
- その他 +1.1兆円

- 23年4Qの預貸金利回り差は貸出金利回りの低下を主因に若干の縮小

国内預貸金利回りの推移



【金利改定状況】

- 20年11月4日
普通預金金利 0.200% ⇒ 0.120%
- 20年11月20日
短期プライムレート 1.875% ⇒ 1.675%
- 20年12月22日
普通預金金利 0.120% ⇒ 0.040%
- 21年1月13日
短期プライムレート 1.675% ⇒ 1.475%
- 21年4月1日
新規住宅ローン変動金利
⇒3月1日時点の短期プライム連動長期貸出金利を基準に変更
- 21年7月1日
既存住宅ローン変動金利
⇒4月1日時点の短期プライム連動長期貸出金利を基準に変更
- 22年9月6日
普通預金金利 0.040% ⇒ 0.020%

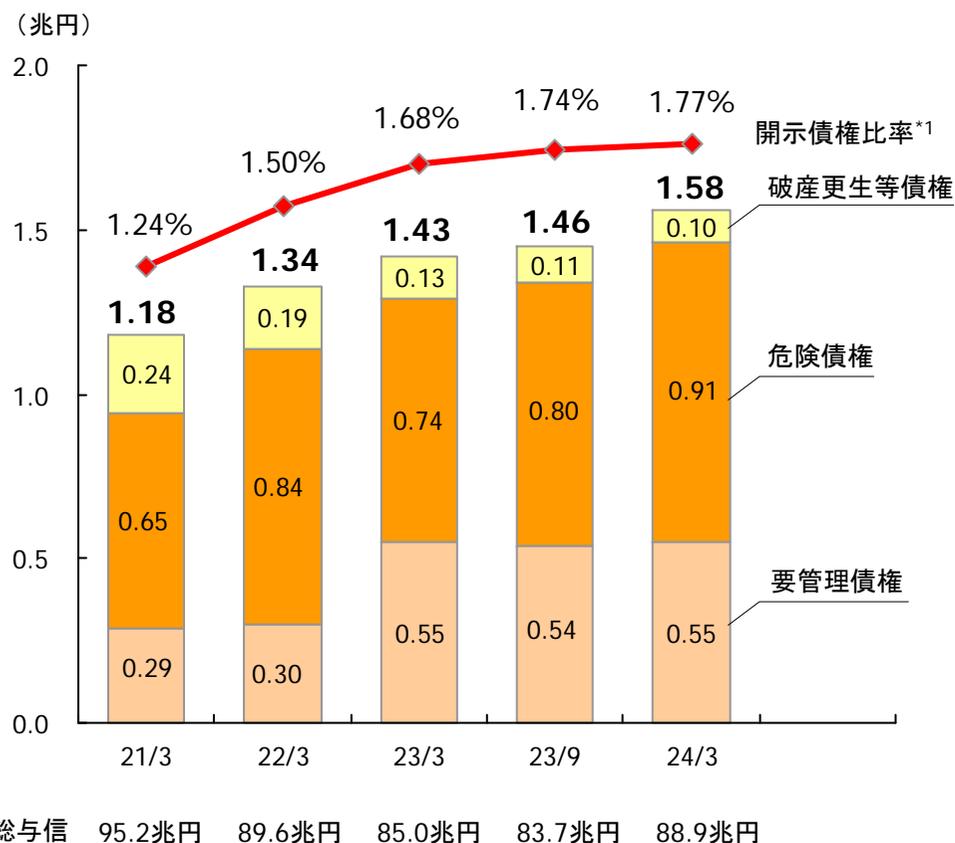
貸出資産の状況

【連結・2行合算】



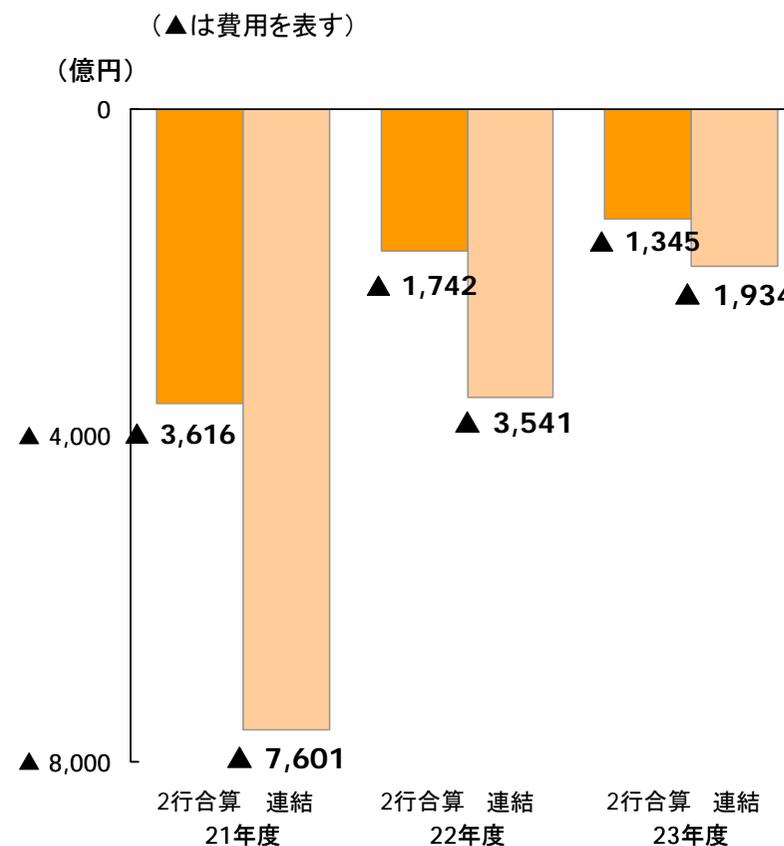
- 開示債権比率は1.77%と23/9末比0.03%上昇したものの、引き続き低水準を維持
- 与信関係費用総額は2行合算では1,345億円、連結では1,934億円と大幅に減少

金融再生法開示債権残高(2行合算)



*1 開示債権額÷総与信

与信関係費用総額^{*2}



*2 償却債権取立益込み

保有有価証券の状況

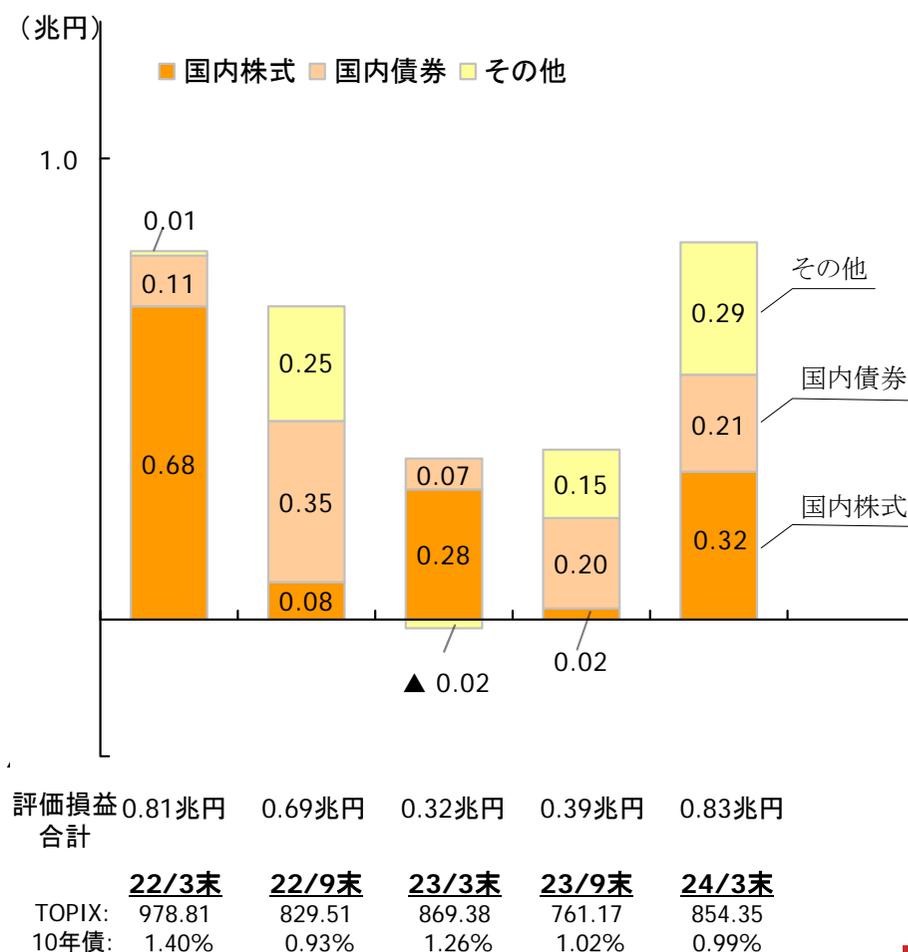
- 其他有価証券全体の評価損益は23年9月末比4,418億円改善。株式相場の回復に伴い株式の評価損益が大きく改善するとともに、その他の評価損益も改善

其他有価証券(時価あり)の内訳

(単位:億円)

		24年3月残高		評価損益	
			23/9末比		23/9末比
1	合計	748,317	30,520	8,320	4,418
2	国内株式	33,338	2,176	3,217	2,985
3	国内債券	515,668	9,781	2,175	77
4	国債	480,058	13,679	1,551	139
5	その他	199,310	18,562	2,928	1,354
6	外国株式	1,703	360	502	318
7	外国債券	179,219	16,083	2,606	75
8	その他	18,387	2,119	▲ 181	961

其他有価証券評価損益の推移



欧州周縁国へのエクスポージャー



- 欧州周縁国向け実質リスクベースのエクスポージャー残高(商銀連結)は、総資産に対し限定的

24/3末エクスポージャー残高(商銀連結)

	23/9末残	24/3末残
スペイン	約64億ドル	約58億ドル
イタリア	約54億ドル	約59億ドル
アイルランド	約3億ドル	約3億ドル
ポルトガル	約6億ドル	約6億ドル
ギリシャ	約3億ドル	約3億ドル
合計	約130億ドル	約129億ドル

24/3末保有国債残高(MUFG)

	23/9末残	24/3末残
スペイン	約9億ドル	約7億ドル
イタリア	約32億ドル	約28億ドル
アイルランド	-	-
ポルトガル	0億ドル	0億ドル
ギリシャ	-	-
合計	約41億ドル	約35億ドル

エクスポージャーは限定的

●エクスポージャー残高

- ソブリン向けはゼロ
- 9割以上は一般事業法人向け与信およびストラクチャードファイナンス
- スペイン、イタリア向けエクスポージャーは電力・ガス・通信などのインフラ業種が中心
- 金融機関向け与信は限定的
- CDSヘッジ勘案後のエクスポージャー残高は約120億ドル

●保有国債残高

- ギリシャ・アイルランド国債の保有はなし
- スペイン・イタリア国債の大半は満期保有目的であり、2.5年以内に償還

自己資本の状況

(単位:億円)

●自己資本額

- 利益剰余金の増加などにより、Tier1は512億円増加
- 有価証券含み益の増加に加え、劣後債の発行等によりTier2も増加し、自己資本は3,577億円増加

●リスクアセット

- オペレーショナルリスクが先進的計測手法への変更により減少する一方で、この変更に伴うバーゼル規制上のフロア調整が必要になり、全体では5兆1,796億円増加

●自己資本比率

- 自己資本比率 : 14.91%
- Tier1比率 : 12.31%

		23年3月末	23年9月末	24年3月末	23年9月末比
1	自己資本比率	14.89%	15.42%	14.91%	▲0.51%
2	Tier1比率	11.33%	13.04%	12.31%	▲0.73%
3	Tier 1	99,533	104,710	105,222	512
4	うち資本金・資本剰余金	43,117	43,137	43,137	0
5	うち優先株式	3,900	3,900	3,900	-
6	うち利益剰余金	47,996	54,069	56,023	1,953
7	うち少数株主持分	18,738	17,211	16,916	▲294
8	うち優先出資証券	13,627	12,317	12,073	▲244
9	Tier 2	39,204	37,765	40,387	2,621
10	うち有価証券含み益	1,365	1,475	3,430	1,955
11	うち劣後債務	34,633	33,537	34,465	928
12	控除項目	▲7,929	▲18,628	▲18,184	443
13	自己資本	130,808	123,847	127,425	3,577
14	リスクアセット	878,049	802,769	854,565	51,796
15	信用リスク	792,073	719,649	716,720	▲2,929
16	マーケットリスク	19,941	18,519	23,800	5,280
17	オペレーショナルリスク	66,034	64,599	47,985	▲16,614
18	フロア調整	-	-	66,060	66,060

24年度業績目標 / 配当金予想

【連結・単体】



- 24年度の連結当期純利益目標を6,700億円に設定

【業績目標】

〔連結〕

	24年度		23年度	
	中間期	通期	中間期 (実績)	通期 (実績)
1 経常利益	5,000億円	11,100億円	9,586億円	14,719億円
2 当期純利益	2,900億円	6,700億円	6,960億円	9,813億円
3 与信関係費用総額	▲1,000億円	▲2,100億円	▲286億円	▲1,934億円

〔単体〕

(三菱東京UFJ銀行)

4 実質業務純益	4,050億円	8,600億円	5,538億円	10,228億円
5 経常利益	3,100億円	6,900億円	4,165億円	7,433億円
6 当期純利益	2,150億円	4,600億円	2,719億円	4,690億円
7 与信関係費用総額	▲500億円	▲1,000億円	▲75億円	▲1,253億円

(三菱UFJ信託銀行)

8 実質業務純益	700億円	1,550億円	746億円	1,481億円
9 経常利益	600億円	1,300億円	641億円	1,101億円
10 当期純利益	400億円	800億円	460億円	758億円
11 与信関係費用総額	▲50億円	▲100億円	70億円	▲92億円

【配当金予想】

	24年度			23年度		
	中間配当金 (予想)	期末配当金 (予想)	年間配当金 (予想)	中間配当金 (実績)	期末配当金 ^{*1}	年間配当金 ^{*1}
12 普通株式1株当たり 配当金	6円	6円	12円	6円	6円	12円

*1 23年度期末配当については、平成24年6月28日に開催予定の定時株主総会において承認されることを前提としています。